

一人一台タブレット端末時代の授業づくり
～「英語拠点校・協力校事業」「学びの保障・充実のための
学習用デジタル教科書実証事業」を通して～

由利本荘市立本荘南中学校 池田 勇作

1 令和3年度「拠点校・協力校英語授業改善事業」

本年度、本校では鶴舞小学校とともに上記事業に指定され、授業改善を行った。主な目的として以下の4点が挙げられる。

- (1) 児童生徒の英語による言語活動の充実（時間と増加と質の向上）について
- (2) 指導の改善及び評価の在り方について
特に中学校では
 - (イ) 「CAN-DO リスト」形式で設定した学習到達目標を活用した授業改善に取り組むこと（公表及び達成状況の把握を含む）
 - (ウ) 「即興で話すこと」及び「ALT を活用したパフォーマンステスト」を中心とした研究に取り組むこと。
- (3) 外国語活動・外国語（英語）担当教員の英語力及び指導力向上に向けた具体的な取組について
- (4) 校種間の連携の在り方について

本校では特に、(2) (イ) (ウ) に関して授業実践やその検証を重ねた。また、本年度から新学習指導要領に対応した教科書での授業となり、教科指導を改めて見つめ直す1年となった。一方で生徒は、令和3年度から一人一台タブレット端末を使えるようになった。授業で使用したデジタル教材の成果と課題を整理し、外国語教育における効果的なICT活用に関して考察したい。


2 タブレット端末を利用した音読練習，パフォーマンステスト

NEW HORIZON English Course 3 Let's Read 1 "Mother's Lullaby" での実践を紹介したい。全5時間計画で、単元のゴールを「A Mother's Lullaby を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを理解し、気持ちを込めて音読することができる。」と設定した。指導の流れは以下の通りである。

- ①パートを4つに分け、音読したい場面を1パート選択する。
- ②タブレット端末のデジタル教科書を使い、個人練習。必要に応じて、録音機能も利用する。
- ③4人班でのグループ発表会で、お互いに評価、アドバイスし合う。
- ④最終発表をタブレット端末に録音。ALT, JTE が後日評価する。

【実際に生徒に配付した評価シート】

JTE, ALT とで共同で評価シートを作成し、一人一人にフィードバックした。ルーブリックに関しては、指導者側、生徒側双方で取り組みやすいもの、評価に使いやすいものを開発していく必要性を感じた。

| |
|---|
| Class (A) No. (1) Name () |
| Points |
| Fluency (すらすら) 3 (Excellent) 2 (Good) 1 (So-so) 0 |
| Accuracy (英語らしさ) 3 2 1 0 |
| Feelings (感情を込めて) 3 2 1 0 |
| Volume (音量) 3 2 1 0 |
| <input checked="" type="checkbox"/> p.52 – Let's Read 1 – Part 1 |
| A big, old tree stands by a road near the city of Hiroshima. Through the years, it has seen many things. |
| One summer night, the tree heard a lullaby. A mother was singing to her little girl under the tree. They looked happy, and the song sounded sweet. But the tree remembered something sad. |
| "Yes. It was some eighty years ago. I heard a lullaby that night, too." |

3 教師用デジタルブック，生徒用デジタル教科書の活用

教師用デジタルブックを活用することで、次のような成果 (○) と課題 (△) が見られた。

- 指導者は板書や説明時間の短縮
- 写真やイラスト，関連動画等の活用により，英語で授業をすることを支援
- △生徒の理解度を確認しながら進める必要あり
- △テンポよく進むことによる下位生徒への配慮

また，生徒用デジタル教科書を活用することで，次のような成果（○）と課題（△）が見られた。

- 自分のペースで音読練習（音読スピード，練習回数等）が可能
- △タブレット端末が動かなかったり，起動に時間がかかったりする不具合も時々見られ，バックアッププランが必要な場面も
- 共有機能の理解や，活用による英語力の向上

4 デジタル教材の活用の成果（○）と課題（△）

- 様々な機能を器用に使う場面の増加
- 一人一台端末があることで調査活動の時間確保
- インターネットを介したオーセンティックな教材へのアクセス
- △「言語活動の更なる充実」のための活用方法の模索
- △翻訳機能の活用方法
 - …翻訳機能の活用に関して，紙媒体での辞書と変わらない活用ではもったいないということや，visual aidとして効果的に使うための方策も研究が必要。
- △各教科文房具ぐらい手軽に使える環境作り